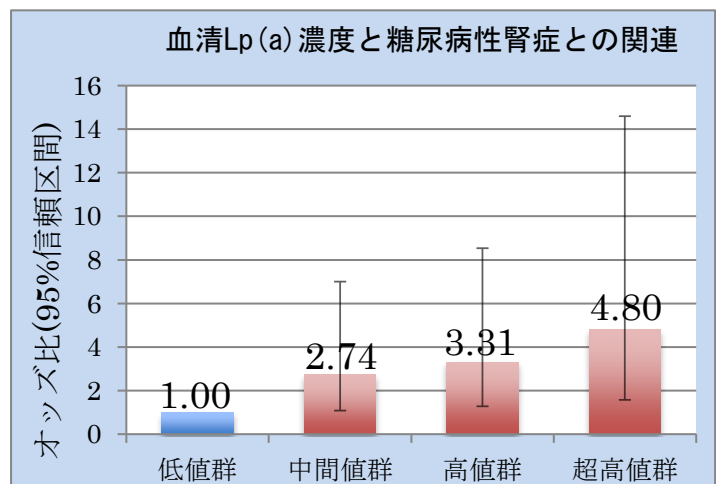


## 日本人 2 型糖尿病患者における血清 Lipoprotein(a)と 糖尿病性腎症との関連

背景: 我が国において糖尿病性腎症は透析導入の原因疾患の第一位を占め、患者自身や社会全体の大きな負担となっています。血清 Lipoprotein(a) (以下 Lp(a)) は冠動脈疾患の危険因子であることが明らかとなっていますが糖尿病性腎症への影響については明らかでなく、特に我が国ではエビデンスが不足しています。

方法: 道後 STUDY に参加した 1051 名のうち、データ欠損のない 581 名の 2 型糖尿病患者を対象とし、血清 Lp(a)濃度の 30、60、90 パーセンタイルで低値群、中間値群、高値群、超高値群の合計 4 グループに分けました。尿中アルブミン 300mg/gCr 以上 かつ/または eGFR 30ml/min/1.73m<sup>2</sup> 未満を糖尿病性腎症と定義しました。交絡因子として年齢、性、body mass index、HbA1c、糖尿病罹病期間、喫煙、飲酒、高血圧、血清総コレステロール、LDL コレステロール及び HDL コレステロール値、中性脂肪、虚血性心疾患、脳卒中を補正しました。

結果: 血清 Lp(a)濃度の中間値群、高値群、超高値群では低値群と比べ糖尿病性腎症の有病率が有意に高く、血清 Lp(a)濃度が高くなるほど糖尿病性腎症の有病率が増加することが分かりました(傾向検定  $P=0.004$ )。超高値群では低値群と比べて糖尿病性腎症の有病率が 4.8 倍でした。



結論: 日本人 2 型糖尿病において血清 Lipoprotein(a)濃度は糖尿病腎症の有病率と正の関連を示すことが分かりました。

【出典】 Senba H, Furukawa S, Sakai T, Niiya T, Miyake T, Yamamoto S, Ueda T, Torisu M, Minami H, Miyaoka H, Onji M, Tanaka K, Matsuura B, Tanigawa T, Hiasa Y, and Miyake Y: Serum lipoprotein(a) levels and diabetic nephropathy among Japanese patients with type 2 diabetes mellitus. *Journal of Diabetes and Its Complications*. 2016 : 30 ; 923-927.